

江田島市議会議長 酒永光志 様

第4班 班長 上本 雄一郎

市民懇談会（議会報告会）実施結果報告書

開催日時	令和 6 年 11 月 27 日（水） 16 時 00 分 ～ 17 時 00 分			
開催場所	広島県立大柿高等学校			
出席議員	班 長	上本 雄一郎	司 会	浜西 金満
	班 員	古居 俊彦	記録者	筧本 語
	オブザーバー	吉野 伸康、平川 博之、長坂 実子		
参加団体	広島県立大柿高等学校 生徒会			
参加人数	11 人			
議会報告の概要	・議会だより 78 号（令和 6 年 5 月 1 日）の令和 6 年度予算の報告 ・「人口減少問題」等をテーマに意見交換 ・質疑応答（意見・要望等）			
主な意見・要望	別紙のとおり。			
まとめ				

主な意見・要望

(1) 人口減少対策

- 人と人との出会いのマッチングに対する支援が結婚支援として重要だと思う。
- 出産祝い金などを出す自治体があるが、そういう取組が大事と思う。出会いのマッチング支援も重要。
- バスの便数が少なく、乗り換えも大変。便数を増やし、乗り継ぎを極力無くせば、免許のない人も不自由を感じなくなり、人口も減らないのではないかな。
- バスの便数を増やしてほしい。また、通学定期券への支援拡充を望む。
- スターバックスやカラオケボックス、服屋、靴屋など若い子が行けるお店が増えるよう取り組んでほしい。アルバイト先として働く場所にもなる。
- 買い物のできるお店が少ない。ネットで買うこともできるが、やはり自分で選びたい。市外に行かなければならないのが大変。
- 市内に遊べる場所がない。球技ができ、遊具もある大きな公園をつくってほしい。
- 台湾への修学旅行の際、提灯で彩られたまちなみに感動した。本市もそういうきれいなまちなみを整備すれば観光客が増え、人口増につながるのでは。
- 大きな図書館など、学生が集って自習できる施設があれば、若者も出ていかないとと思う。
- イベントを増やして、各 SNS (Instagram など) を駆使して告知を行えば、もっと賑やかになると思う。

(2) そのほか市政に関すること

- 市政全体の方向性はよいと思う。
- 大柿高校の公営塾が好評なので、もっと充実してほしい。
- 大柿高校専用のスクールバスを出してほしい。
- この島の高校生が通学を親に委ねざるをえない公共交通の現状はどこかおかしい。バスの利便性向上を強く求める。
- 夜道が暗い。街灯をもっと増やせば、見た目にも防犯的によいと思う。
- 切串や小用に比べて三高一宇品航路の便数が少なすぎるので、改善を望む。
- 美容の仕事をしたいので、広島市のほうでの仕事になると思う。交通費と通勤時間を考えると、島から通うのはしんどい。
- 昔ながらのよいものを残し活用する形で空き家のリフォームを進めれば、市外の人を呼び込めるのでは。
- 空き家をリフォームして素敵なお店が増えることを望む。
- 空き家の改修に対する支援よりも、住宅新築に対する支援を望む。
- 海や自然といった今あるものをどう活かしていくかという視点が大事。
- 産科や婦人科が無いので不安。
- もっと若者が住みやすい市にしてほしい。
- SNS 等を使って、イベントや市政の情報発信を強化してほしい。

(3) 江田島市のよいところ

- 海や山が近く、景色のよいところが多いので、心が癒される。
- 適度に人が少ないので落ち着く。
- おもしろいイベントや異文化交流のイベント、オリーブミュージアムや MIKAN マラソンなど、楽しいイベントが多い。
- おしゃれな飲食店が増えてきているのでうれしい。

（４）そのほか生徒の声

- 若年世代にとって年金保険料の負担が大きい。全世代の負担を減らせるよう取り組んでほしい。
- 江田島荘が有名になっているが、地元からは不評で温泉も以前の方がよかった。食事はおしゃれでよいが、気軽に寄れる感じではない。
- 保育士になりたいので他市へ進学するが、いずれは帰ってきたい。
- 地元は好きだが、看護師になる夢のため、出て行く予定である。

まとめ

当班の担当した市民懇談会は、「若年世代の声」を聞かせていただきたいという市議会としての思いをもとに、対象者を特定する形で開催にこぎ着けたものであり、広聴に係る市議会の取組として大きな一歩になったと捉えています。広島県立大柿高等学校にまさにいま通う生徒達の声を直接聞き、対話する機会を得たことは、市議会 20 年の歴史において画期的な出来事であり、意義深いことと考えます。

「人口減少対策をどのように考えるか」という市民懇談会の統一テーマのもと、出席者の皆さんにご意見を伺いました。

出席者からは、バス・航路の利便性向上やその負担軽減に関する要望、若者にとって魅力的なお店の開業支援など島固有のハンディキャップ克服を願う声のほか、図書館や公園、美しいまちなみの整備についての意見が寄せられました。また、市公式 LINE のみならず、若年世代向けにInstagramによる情報発信を強化すべきとの指摘もありました。

空き家対策については多くのご意見をいただきました。学校での地域学習等を通じて、市内の実情をよく観察し、それぞれが考えを深めている様子が伺えました。

このほか、進学等でいったん島を離れるものの戻ってきたいという声がある一方で、島には働く場が限られる以上、もう戻ってこないと思うとの声もありました。

従前の市民懇談会とは出席者の年齢層が異なるため、これまで顕在化してこなかった若年世代の多様な意見が表出されたものと捉えます。

前年度開催時の反省を踏まえて、説明時間を大幅に短縮し、高校生のご意見を伺うという対話中心の姿勢で臨めた点はまずもってよかったと感じます。

ただし、運営面では反省点が多々あります。たとえば、冒頭の長い挨拶や当方の生まじめかつ固い問いかけが生徒達の緊張感をかえって高めてしまったこと、机の数が多くて膝突き合わせての座談会とはならなかったこと、適宜適切に進行管理できなかったこと、などが挙げられます。高校生が普段感じていることをうまく聞き出すことができたのかは疑問が残ります。気楽に話していただける雰囲気をつくることに努めるべきだったと反省しています。当日の出席者の様子や会場の雰囲気等を察して、臨機応変に対応することが今後の課題と考えます。

市議会としては、今回いただいた貴重なご意見をしっかりと受け止め、議案審議や所管事務調査のほか、議員各自の一般質問等を通じて、地域課題の解決や改善策の検討に鋭意取り組んでまいります。

当日、「議員さん相手に初めて話してみて、知らないことが多く知れてよかった」、「江田島の楽しいところ、残してほしいところを伝えられてよかった」との言葉をいただいたのは望外の喜びです。今回の経験を糧として、市民懇談会の運営や進行のあり方にさらに改善を加えることはもとより、市議会として定期的に若年世代の声に耳を傾ける場を確保するべく、引き続き取組を進めます。